



「あらかわの心」カルタ紹介



みなさんは「あらかわの心」カルタを知っていますか？
ここでは3ページで紹介した「あらかわの心」カルタについて、「あらかわの心」をよく表す代表的な読み札の一部をご紹介します！

- (あいさつ) あ 荒川は 笑顔とあいさつ にあう町
- (きまり) こ ごみ・たばこ みんなポイすていけないよ
- (思いやり) お おばあちゃん いっしょにわたろう 小さな手
- (体験) は はじめての おつかいうれしい お手伝い
- (見守り) た 大切な 命はぐくむ 地域が目



カルタ遊びをきっかけに、親子・学校・地域で「あらかわの心」を実践してみましょう！

「あらかわの心」カルタ読み札クイズ

〇〇の中に入る言葉（ひらがな）は何でしょう？

- ① 荒川は 笑顔と〇〇〇〇 にあう町
- ② はじめての おつかいうれしい 〇〇〇〇〇
- ③ たいせつな 命はぐくむ 〇〇〇の目

全問正解者の中から抽選で30名の方に「あらかわの心」オリジナルエコバックをプレゼントします。郵送かメールで令和2年12月15日までに 下記事務局宛てにご応募ください。

第12回「あらかわの心」カルタ大会について

令和3年2月に予定しておりました「あらかわの心」カルタ大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とします。

アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から5名の方に「あらかわの心」推進運動定規セットをプレゼント致します。郵送かメールでご応募ください。

- 郵送の場合
はがきに、住所、氏名、電話番号、とアンケート（またはクイズの回答／おせっかい体験談）をご記入の上、下記までお送りください。
〒116-8501
東京都荒川区荒川2-2-3
荒川区子ども家庭部児童青少年課内
あらかわの心ニュース
「アンケート」係
※クイズ：あらかわの心ニュース「クイズ」係
※おせっかい体験談：あらかわの心ニュース「おせっかい体験談」係

- メールの場合
メールの件名を下記のようにして、住所、氏名、電話番号、アンケート（またはクイズの回答／おせっかい体験談）をご記入の上、下記までお送りください。
メール件名 あらかわの心「アンケート」係
Eメール arakoko@city.arakawa.tokyo.jp
※クイズメール件名：あらかわの心「クイズ」係
※「おせっかい体験談」メール件名：あらかわの心「おせっかい体験談」係
- 締め切り
令和2年12月15日。アンケート・クイズいずれも当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
なお、いただいたご意見等は、ニュース等の広報誌でご紹介させていただくことがありますので、ご了承ください。

アンケート

- ① このニュースはどこで手に入れましたか。
- ② もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。
- ③ その他、ご意見・ご感想等がありましたら、お願いします。



定規セット

第29号 令和2年10月1日発行
発行 「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 (荒川区子ども家庭部児童青少年課内)
TEL.03-3802-3111 (内線3833) FAX.03-3802-3174

<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp
<ホームページ>
右記QRコードから、「あらかわの心」推進運動のホームページにとぶことができます。



「あらかわの心」ニュース



「あらかわの心」推進運動シンボルマーク

今号では、「あらかわの心」推進運動区民委員会幹事会幹事長あいさつをはじめ、参加団体の活動報告、事務局からの活動紹介についてお届けします。



あらいみ ©荒川区2012 # (2-0014) あら坊 ©荒川区2010 # (2-0014)

第29号

令和2年
10月1日発行

「あらかわの心」幹事長挨拶



▲川の手荒川まつりPR活動



▲「あらかわの心」カルタ大会

「あらかわの心」推進運動とは？

「まず大人が行動する」ことで子どもの手本となり、「大人と子どもが一緒に行動」し、「地域ぐるみで子どもを見守り育てる」という3つの視点に基づき、「あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守り」の心をつなぐ5つの取り組みを実践することで、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現を目指す運動です。



今こそ
「あらかわの心」を
「あらかわの心」幹事長 山崎 律子

いつも「あらかわの心」推進運動に御支援、御協力を戴き、誠に有難うございます。

世界的規模の新型コロナウイルスの災禍により、さまざまな行事が中止となり、人々には我慢の日常が続いています。

それでも、大人は勿論、子どもたちも健気に頑張っている姿を見ると、「人間は逞しいな」と少し希望が湧いてきます。

「あらかわの心」では「あいさつ」「きまり」「思いやり」「体験」「見守り」の5つの取り組みを推進しています。これらの取り組みは、普段もそうですが、新型コロナウイルス対策が必要な今だからこそ、より一層重要になっていると、私は感じています。

例えば、感染症拡大予防のための「マスク着用」ですが、これも一見、自分の予防のためのように見えますが、むしろ、他人にうつさない効果が優

先で、多くの方が着用することにより、他人も自分自身も守ることにつながるわけです。これこそ「思いやり」「きまり」の最たる行動だといえます。

「あらかわの心」のほかの取り組みも、感染拡大予防のために「在宅」が中心にならざるを得ない今だからこそ、できることがたくさんあると思います。

例えば、家庭の中で、保護者と子どもたちが一緒に掃除やご飯の支度といった家事をお手伝いする「体験」ができたり、ストレスが溜まりがちな子どもの心と体を地域全体で「見守り」、寄り添ったり、過酷な現場で働く医療従事者などの皆さんに感謝をする「思いやり」の気持ちを共有したり、大人と子どもが共に考え、実践できる機会は、むしろ多くなっているようにさえ感じます。

まずは、毎朝、元気に、おはようの「あいさつ」をすることから始めてみませんか。

「ピンチをチャンスに」という言葉もあるように、この機会を活かして、私たち大人から前向きに発信していきたいものです。

人類共通の大きな災禍に対しても、一人一人の小さな努力と知恵が、乗り切る為の大切な力となることを信じ、子ども達へバトンを繋ぎたいと願っています。

心をつなぐ金管マーチングバンド活動

第六瑞光小学校には全校児童が参加する金管マーチングバンドの活動があります。

子供たちはこの活動を通して、演奏の技術だけでなく、目標をもって努力することや仲間と協力することを学びます。練習では高学年が低学年に優しく教える雰囲気が脈々と受け継がれ、子供同士の心をつないでいます。



練習風景

また、青少年育成南千住地区委員会のおまつりや社会を明るくする運動など、様々な地域行事に参加の機会をいただくことで、地域の皆様

とのつながりを深めるきっかけにもなっています。

第六瑞光小学校の金管マーチングバンド活動は、見守り、応援して



社会を明るくする運動街頭パレードの様子
保護者の皆様をはじめとする多くの方々に支えられています。これからも感謝の気持ちを忘れず、子供たちの成長と、共に生きる地域社会づくりにつながるよう努力してまいります。

荒川区立第六瑞光小学校
校長 佐野 実

荒川区社会福祉協議会って何？

日頃から荒川区社会福祉協議会（荒川社協）の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

社協は全国自治体にあり、皆様からの会費や寄付金等により運営しています。荒川社協では、生活実習所、福祉作業所、アクロスあらかわの運営、粋・活サロンや子ども応援ネット等の支援、ボランティアセンター、おもちゃ図書館、にこにこサポート、ファミリーサポート、成年後見等あんしんサポート、移動支援、福祉

資金や受験生チャレンジ貸付、障がい者就労支援等を行っています。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、資金貸付を実施中です。今後も、皆様の生活の困りごとを地域の課題として捉え「誰もが安心して暮らせる街」であるよう、日々努力していきます。



▲マスコットキャラクターのひらりちゃん

毎日の生活の中での不安や困りごとがありましたら、ぜひご相談ください。解決のお手伝いをしたいと思います。

荒川区社会福祉協議会 石澤 宏

「子どもたちの今」

「あらかわの心」幹事長の山崎さんにインタビューしていただきました。

荒川区立第七中学校1年 レインボー子ども会 加藤 快雪

私は、レインボー子ども会の活動で、2019年に首都圏で記録的被害をもたらした台風15号の3週間後に、募金活動をしました。その時、たくさんの方にご協力をいただき、人の温かさを感じました。

その後、募金活動をしたメンバーと一緒に荒川区社会福祉協議会に募金を届けてきました。この活動を通して、困っている人々の役に立てたかはわかりませんが、少しでも力になれていたら嬉しいです。

今、日本だけではなく世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるっています。中学校では、入学式が延期され、運動会の中止など行事もなかなかできなくなってきました。



私は、こんな時だからこそ、一人一人が力を合わせて乗り越えるべきだと思います。

私ができることは小さなことかもしれませんが、一人一人が意識すれば大きくなります。今こそみんなでこの難局を乗り越えましょう。

おせっかいおじさん・おばさん運動とは

皆さんは「おせっかい」という言葉にどんなイメージを持っていますか。もしかしたら、あまり良いイメージを持っていない人もいるかもしれません。

一方で、誰かを気にかけ、手を差し伸べることは人が地域で生きていくために大切なことです。

そこで「あらかわの心」推進運動では、「おせっかいおじさん・おばさん運動」を通じて、普段「おせっかい」にためらいを感じている人が一歩を踏み出せるよう、啓発しています。

子どもたちにも是非この「おせっかい」を実践してほしいと願っています。

特に、今、新型コロナウイルスの影響により、人と人が接点を持つ機会が大きく減っています。

だからこそ、この「おせっかい」の力が試されるのではないのでしょうか。

まずは簡単にできることから始めてみませんか。

例えば今年の夏休みに会いに行けなかったおじいちゃん・おばあちゃんに電話をかけてみたり、手紙を書いてみるということも「おせっかい」の一つです。



最初は小さなことから、誰かを気にかけて行動してみてください。この「おせっかい」でつながる温かい地域社会をみんなで作り上げていきましょう。

あなたも「おせっかい」をしてみませんか？

「おせっかい」という言葉のイメージは必ずしも悪くありません。しかし、誰かに助けを求めている人、つまり他人に助けを求めている人、人々のつながりや思いやりが大切で、それが支え合いに繋がっていくため、人が助けを求めている時に大切なことです。

「他人に助けを求めている人」から、「おせっかい」が始まります。

「あらかわの心」推進運動区民委員会は、誰もが勇気をもって「おせっかい」ができるよう、「他人に助けを求めている人」と呼ばれる「おせっかいおじさん・おばさん運動」を行っています。

荒川区には「おせっかい」があふれています。まずはできることから、一歩を踏み出してみよう！

（裏面に、荒川区で実際にあったおせっかいの例を掲載しています。）

【お問い合わせ先】「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局
荒川区子ども家庭支援センター内 TEL 03-3802-3111 内線 3031

荒川区で実際にあった「おせっかい」の例

<子どもの見守り・注意に関する例>

- ・けんかをしている子どもに注意した。
- ・保育園、幼稚園の子どもを見守っている。

<交通ルールについて注意した例>

- ・歩行者で渡る人に注意した。
- ・スマホをしながらの歩行や自転車の乗車を注意した。

<困っている人に声かけ・手助けした例>

- ・困っている高齢者に声をかけた。
- ・迷っている人に声かけ、道案内をした。

（裏面に、荒川区で実際にあったおせっかいの例を掲載しています。）

【お問い合わせ先】「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局
荒川区子ども家庭支援センター内 TEL 03-3802-3111 内線 3031

おせっかい体験談大募集！

- あなたの「おせっかい」体験を教えてください。これって「おせっかい」かな？と疑問に思ったことでも良いので是非事務局まで送ってください。
- 宛先：裏面の事務局宛てに郵送又はメールでお送りください。郵送・メールともにご自身の住所・氏名・電話番号をご記入ください。
- いただいたおせっかい体験談は、ニュース等の広報誌でご紹介させていただくことがあります。氏名等の個人情報は原則として公表しません。

「あらかわの心」グッズ紹介

事務局では「あらかわの心」推進運動を盛り上げていくため、啓発グッズを作成しています。

「あらかわの心」カルタ及びピンバッチは荒川区役所2階にある子ども家庭部児童青少年課の窓口にて販売しています。「あらかわの心」カルタは子どもたちだけでなく、ぜひ大人も一緒に読んでいただきたい読み札がたくさんあります。ぜひ、ご家庭や学校でお役立てください。

ここに載っている啓発グッズのうち、あなたはいくつ見たことがありますか？こんな啓発グッズがあるといい！というアイデア・ご意見等ございましたら、裏面の事務局宛てにお送りください。

「あらかわの心」カルタ
1組 500円

▲定規セット

みんなであらかわの心
あいきつ
見守り 色守り
絆 思いやり
「あらかわの心」推進運動区民委員会

▲タオルハンカチ

「あらかわの心」ピンバッチ
1つ300円

「あらかわの心」推進運動
「あらかわの心」推進運動区民委員会

▲ポケットティッシュ

「あらかわの心」ノート

▲オリジナルノート